

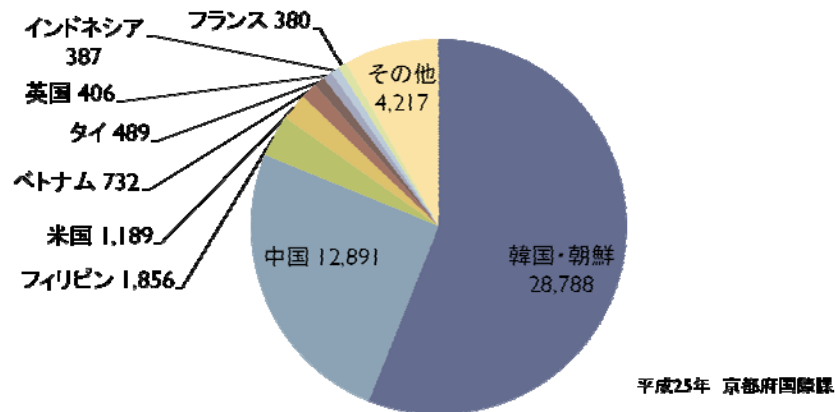


## 「生活者としての外国人」のための 日本語教育体制整備事業

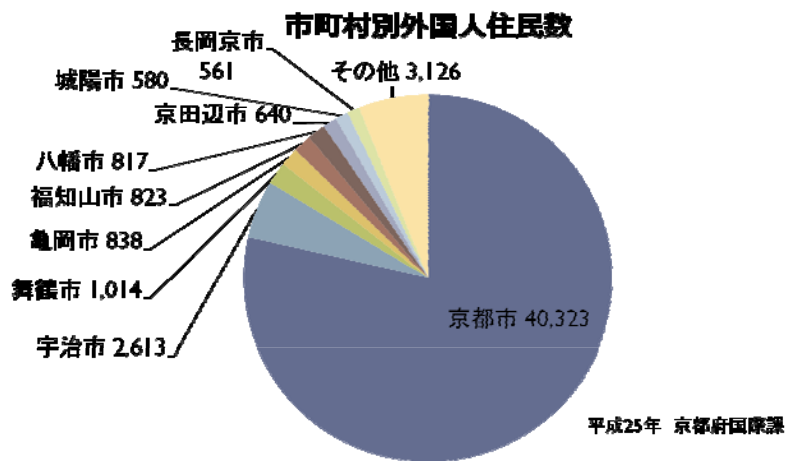
公益財団法人 京都府国際センター

## 京都府の国際化の現状

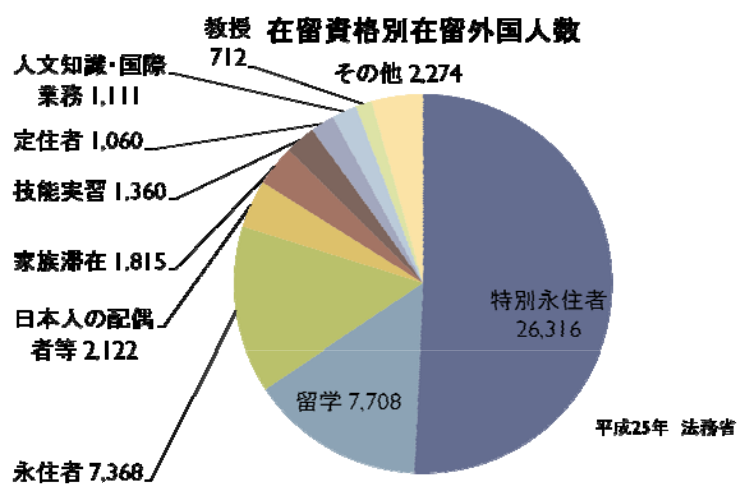
京都府国籍別外国人住民数(51,335人)



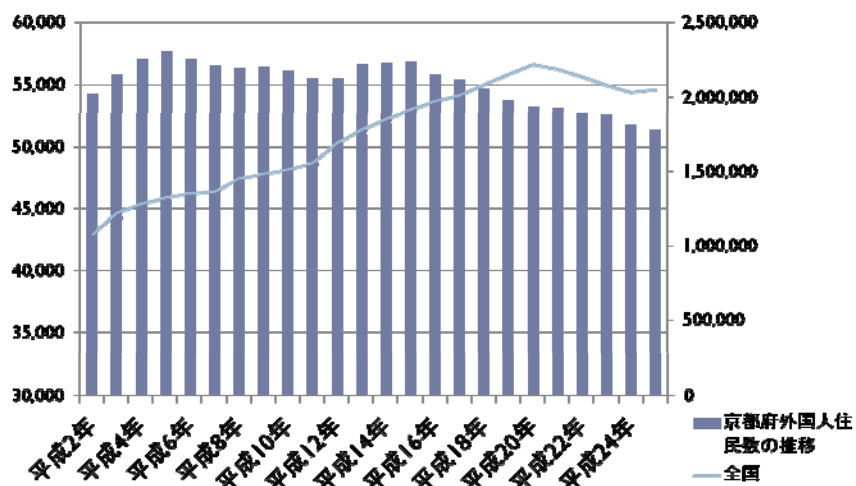
## 京都府の国際化の現状



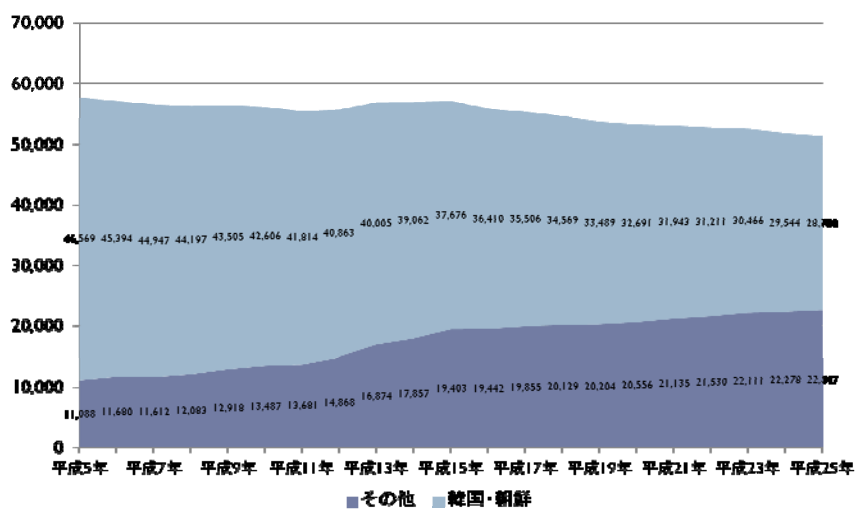
## 京都府の国際化の現状



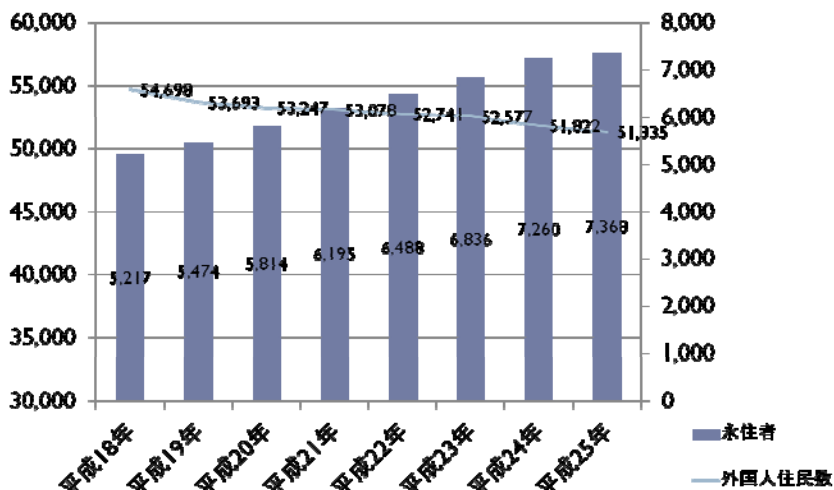
## 京都府の国際化の現状



## 京都府の国際化の現状



## 京都府の国際化の現状



## 京都府の国際化の現状

### 京都府内の市町村国際化協会と地域日本語教室

京都府内では、17の市町村国際化協会(国際交流協会)が活動しています。  
また、各地で外国人住民のための日本語教室が行われています。



## 事業体系

### ▶ 多文化共生

- 日本語学習支援
- 外国人児童等の教育支援
- 災害時支援
- 多文化共生推進体制の整備
- 留学生等支援・交流促進事業



### ▶ 国際交流・理解

- 国際理解促進事業、CIRの派遣



### ▶ 国際協力

- 国際協カステーション



## 日本語学習支援における課題

- ▶ 日本語を学ぶ場所がない → 日本語教室の立ち上げ
- ▶ 日本語を指導する人材の不足 → 人材の養成
- ▶ 日本語指導について学ぶ機会がない → 研修機会の提供
- ▶ 教室同士のつながりがない → 教室のネットワーク化

### 課題解決のための地域のリソース

- ▶ 市町村国際化協会
- ▶ 日本語支援ボランティア
- ▶ 大学・日本語学校
- ▶ 地域日本語教室ネットワーク組織

京都にほんごRings  
京都府内18のボランティア日本語教室から構成されるネットワーク団体。当センターとの相互連携により日本語支援ボランティア・団体をサポート



## 取組内容

### 人材の養成・研修

- ▶ 日本語支援ボランティア養成講座
- ▶ 日本語学習支援を担う人材を養成することで地域日本語教室の立ち上げを支援する
- ▶ 京丹後市(平成21年度)、城陽市(平成23年度)、南丹市(平成25年度)、亀岡市(平成26年度)で実施
- ▶ 京都にほんごRings、大学、日本語学校などの協力得て実施

※講座修了後のボランティアの受け皿を確保  
※事前にオリエンテーションを実施



## 取組内容



日本語支援ボランティア養成講座(亀岡市)

## 取組内容

### 人材の養成・研修

- ▶ 日本語支援ボランティア研修会
- ▶ ボランティアのレベルアップを通して日本語学習支援の充実・活性化につなげる
- ▶ 京丹後市、福知山市、綾部市で合同研修会を実施(平成21年～24年)
- ▶ 昨年度は日本語学校を講師に迎え、北部と南部各1回実施  
参加地域  
北部:京丹後市、綾部市、福知山市、京丹波町、南丹市、亀岡市  
南部:精華町、木津川市、城陽市



## 取組内容

### 人材の養成・研修

- ▶ 日本語初期指導担当者養成講座
- ▶ 日本語教育に関わる人材に限られる府北中部において、各地域日本語教室の大きな課題となっている初期指導を担える人材を養成
- ▶ 参加団体: 京丹後市国際交流協会、福知山日本語交流会、綾部国際交流協会、京丹波町国際交流協会、南丹市国際交流協会、亀岡国際交流協会
- ▶ 時間数: 100時間(5時間×20回)
- ▶ 協力: 公益財団法人京都日本語教育センター(京都日本語学校)



## 取組内容

### ネットワークの形成

- ▶ 京都府北中部地域日本語教室ネットワーク会議
- ▶ 第1回準備会(平成24年12月)、  
第2回準備会(平成25年3月)
- ▶ 第1回ネットワーク会議(平成25年8月)  
参加団体:市町村国際化協会および  
日本語教室(11団体)
- ▶ ボランティア日本語教室ネットワーク「京都にほんごRings」との協働



※南部地域については「京都にほんごRings」定例会議を年4回実施



## 取組内容

### ネットワークの形成

- ▶ 「京都にほんご教室マップ」の作成
- ▶ 府内23ヵ所の地域日本語  
教室の情報を掲載
- ▶ 日本語、英語、中国語、  
韓国・朝鮮語、フィリピン語表記
- ▶ 各教室の広報強化
- ▶ WEB版の公開
- ▶ <http://www.kpic.or.jp/njfumin/nihongo/kyoshitsumap.html>





## 取組内容

### モデル日本語教室の設置

- ▶ 外国人住民のためのにほんご教室
- ▶ 年2回(5~7月、10~12月)  
基礎クラス(20回)、会話クラス(10回)
- ▶ 学習教材の公開と府内教室からの  
授業見学受け入れ  
→モデル日本語教室としての位置付けが  
明確に



## 取組内容



警察署による生活安全講習

消防署による119番通報練習



## 取組内容

### 学習教材の作成

- ▶ 「生活者としての外国人」カリキュラム案を活用して作成

#### ▶ 基礎クラスⅠ

自己紹介する、注文する、家族を紹介する、  
目的地をたずねる、希望・要求を伝える、  
ゴミの出し方をたずねる、警察・消防に連絡する



#### ▶ 基礎クラスⅡ

初対面の挨拶をする、診察を受ける、人を誘う、携帯電話の契約をする、  
面接を受ける、災害情報を聞いて適切な行動をする

※テキストに対応した指導書および翻訳版(英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を作成



## 成果と今後の課題

### ▶ 成果

- ▶ 日本語教室のネットワーク化を実現することにより教室間の情報共有や日本語教育体制整備についての検討の場ができた。
- ▶ 養成講座や研修会など人材育成により教室の新設やボランティアの質の向上が図れた。
- ▶ 日本語教室の設置によりカリキュラムや指導法など地域に向けて参考となる教室モデルを示すことができた。

### ▶ 課題

- ▶ 各教室においては日本語教育に関わる人材が不足していることもあり、初期指導の取り扱いが大きな課題となっている。
- ▶ 日本語教育体制の充実を図るためにはその必要性を一般住民に理解してもらう必要がある。そのためには日本語教育の意義を広く知らせる必要がある。





外国人の「体制整備事業」



Stacks of papers and documents on a table in the foreground.



Additional posters on the wall to the right, featuring various images and text.